

VOL.3

2025.8.31 発行

YOKO CHALLE

横関建設株式会社で働く社員紹介！



横関建設の工場で、日々、鉄と向き合う内海さん。彼が仕事で感じるのは、大きな達成感よりも、作ったものが寸分の狂いなく現場に収まったときの「安心感」。派手さはないものの、そこには確かな仕事への誇りが静かに息づいています。長年の経験で培われた、職人としての哲学と、穏やかな仕事への想いを伺いました。

鉄工部

うちうみ

たかあき

内海 隆明さん

私の息抜き

インターネットの小説を読むこと

「小説家になろう」というサイトをよく利用しています。

インターネット通販

仕事で使う空調服などを買っています。

入社経緯と仕事内容

経験こそが財産。

図面を「本物」にする職人の技

以前から仕事で出入りがあり、声をかけてもらったことが入社のかっけです。鉄工を担当されていた方が引退されるタイミングで、後任として声をかけていただきました。もう10年ほど前のことになります。

現在の仕事は、鉄鋼の加工全般です。溶接や組み立てなど、範囲は多岐にわたります。1つとして同じ建物がなないように、私たちの仕事も毎日がオーダーメイド。図面通りに作るのが基本ですが、設計担当者と「現場で作業するなら、この方がやりやすい」といった打ち合わせを重ね、より良い方法を模索することもあります。図面は線一本で描けても、それを立体にするには、複数の箇所の寸法を正確に合わせる必要があるからです。

こうした専門知識は、特別な勉強をしたというより、現場で「見て覚える」のが基本でした。一つひとつの経験を積み重ね、体に覚えさせてきたという感覚が近いと思います。二級建築士の資格も、知識を深める一助にはなったものの、やはり日々の実践の中で得た経験が一番の財産だと感じています。

やりがいを感じる時

完璧が当たり前。

そのための見えない一手間

この仕事をしていて一番ほっとするのは、作ったものが現場で間違いなく、「ぴたり」とハマったときです。嬉しいというよりも安心するという気持ちです。工場での加工が完璧であれば、現場での作業はプラモデルのようにスムーズに進みます。逆に、もし工場での作業に間違いがあれば、現場での手直しに大きな手間がかかってしまう。だからこそ、図面と現物を何度も照らし合わせ、間違いのないように作業を進めることを常に心がけています。

横関建設の魅力

自分のペースを守ることができる

穏やかな社風

日々丁寧な仕事ができるのも、横関建設の穏やかな社風があるからだと思います。この会社に入ってから、残業をした記憶がほとんどありません。自分のペースを大切にしながら、一つひとつの仕事に集中できる。当たり前聞こえるかもしれませんが、前職ではコストカットなどで常に時間に追われるような経験をしただけに、この落ち着いた環境をありがたいと感じています。

今後の目標

これまでの経験を次の世代につなげていきたい

私も60歳になり、今後の大きな目標というものはありません。ただ、もし若い人が入ってくれるなら、自分が培ってきた技術を少しでも伝えていきたいと思います。

例えば、4本脚のテーブルを、平らな場所に置いたときにがたつかないように作る技術。これは、溶接による金属の歪みや縮みを正確に理解していないとできない、細かな技術です。鉄工というと大味な仕事に思われるかもしれませんが、こうした職人ならではの感覚や技術は、確かに存在します。もし機会があれば、そのような技術の面白さも伝えていきたいです。



横関建設ってどんな会社?

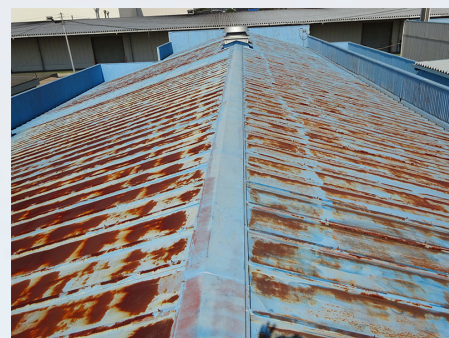
建築工事

工場・倉庫のスペシャリストとして、新築、メンテナンス、改修、修繕まで幅広く対応。



工場・倉庫・事務所建設

計画設計、開発許可申請、確認申請、施工、完了検査まで一貫して請け負います。



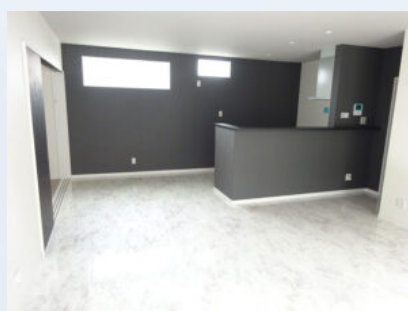
▲Before

▼After



工場・倉庫・事務所メンテナンス

増築、外壁・屋根の張り替え、クレーン設置、サッシ・シャッター工事、鉄骨工事、土木工事、基礎工事、土間工事など、事業展開に合わせた改修に対応。また、屋根・外壁の修理、中2階の設置、トイレの洋式化、エアコン設置、間仕切り設置などにも対応しています。



一般住宅工事

施主のニーズに合わせた間取りやデザインを提案し、住まいづくりをサポートします。

横関建設は、工場・倉庫建設のスペシャリスト。創業以来培ってきた豊富な経験と高度な技術を強みに、地域社会に貢献する事業を展開しています。今回は横関建設の事業について、さらに詳しくご紹介します！

鉄骨工事

構造や目的に応じて鉄骨部材を加工し、建物の骨組みを形成。自社鉄骨工場での部材加工の内製化により、鋼材価格が上昇する中でも安価な施工を実現します。



鉄骨建物加工

切断、曲げ、溶接といった工程を経て、柱や梁などに利用される適切なサイズに加工。高い技術力で精密な加工を実現し、強度と耐久性を確保した建物を形成します。

部品加工

鉄骨構造物を構成する部品や関連部材を製造・加工しています。自社加工によるコスト最適化と生産効率の向上で、お客様の経費削減に貢献。また、工場内での製造プロセスの監視や品質チェックにより、製品の品質を高レベルで安定・維持させています。

土木工事

地域のインフラにおいて、安全性と持続可能性を重視しながら、建設・改修・維持・管理を行います。地域社会の暮らしの基盤づくりを担う責任を胸に、最適なソリューションを提供。

道路工事

公道や私道、高速道路などの道路を建設・改修しています。安全性や耐久性を確保しつつ交通の便を向上させることで、地域経済の活性化、物流の効率化にも寄与します。

外構工事

景観や環境に配慮しながら建物や敷地の周辺を整備し、機能的で快適な空間を創造。建物との調和のみならず、利便性も考慮します。

開発工事

土地の有効活用や地域の発展を目的に、土地の新規開発や再開発を実施。住宅地や商業施設の新規建設により、地域の利便性や生活環境が向上し、人口増加や経済の活性化にも貢献しています。



設計・開発

お客様のニーズに合わせ、機能性や耐久性、美観などを確保した設計・開発を行います。豊富な経験と高度な技術を基に、高品質かつ低コストを実現する提案が強みです。

設計業務

倉庫・工場建築の設計において、効率性、安全性、環境配慮、特殊要件の適合など、様々な要素を考慮しながら実施。

確認申請

建築基準法や地方自治体の条例に基づき、建築物や建設が安全基準を満たし、周囲の人々や環境へ与える影響を最小限に抑えながら、公共の安全や法的要件に適合しているか確認します。

開発行為申請

建築物や土地の開発・変更が、社会や公共の利益、法令に適合しているか確認します。これにより、計画的かつ正しい開発が行われ、持続可能な都市・魅力ある地域の形成に貢献しています。

内海さんってどんな人？

巻頭インタビューに登場した内海さん。さらに深掘りすべく、部下の高野さんに話を伺いました。入社以来、変わらぬ尊敬の念を抱き続ける理由と、日々の業務で感じる感謝の思いにご注目ください。

鉄工部

たかの すすむ

高野 進 さん



→ 内海さんの第一印象と今の印象

信頼感のある上司

私が入社した7年前からお世話になっているのが、上司の内海さんです。第一印象は「おとなしい人」。普段の様子は、その頃から今も全く変わりません。プライベートでの付き合いは少ないですが、会社にいれば必ず顔を合わせる間柄です。内海さんは加工、私は塗装が主な担当であるため、常と一緒に作業するわけではありません。しかし、私が加工を手伝うときには、いつもの確な指示をくれます。

内海さんへメッセージ

具体的な助言をくれる、頼れる先輩

「こうやったらスムーズにいく」と、具体的な作業方法を教えてくれるので、非常にありがたく思っています。私にとっては頼れる先輩です。仕事では、黙々と作業に集中されている印象。これからもご指導いただく場面があるかと思うので、引き続きよろしくお願いいたします。

＼皆で心がけよう／

鉄工部・高野さんの安全哲学

現場で響く、仲間への一声。そのシンプルな行動が、お互いの安全を確かなものにします。「自分だけでなく、皆で気をつける」。そう語るのは鉄工部の高野さんです。当たり前だからこそ見過ごしがちな「声かけ」の重要性を、現場からのメッセージとしてお届けします。



安全第一

安全に工事するために心がけていること

鉄工部

たかの すすむ

高野 進 さん

自らと仲間を守るための安全確認

仕事において、私が常日頃から心がけているのは「安全確認」です。特に、クレーンで物を吊って動かすときは、細心の注意を払っています。束ねて吊る際に指を挟んだりしないよう、持ち方ひとつにも気を配る。これは入社してからずっと、体に染みついていく習慣です。

自身の経験から学んだ「焦り」の危険性

もちろん、これまで怪我やヒヤリとした経験がなかったわけではありません。クレーンでの移動中にバランスを崩し、打撲してしまっただけでも何度かありました。今振り返ると、その原因は「急ぎすぎ」だったと思います。急ぐと気持ちが焦ってしまい、無理な動きにつながる。それが怪我の元になるのだと、身をもって学びました。

現場で働く皆さんへメッセージ

仲間と徹底する「声かけ」

現場で一緒に働く仲間たちへ伝えたいのも、やはり「お互いに気をつけよう」という一言に尽きます。現場に入るときの挨拶はもちろんですが、作業中の「声かけ」は特に重要です。危ないと感じたときは、自分だけでなく周りにも聞こえるように声を出す。当たり前のことですが、この積み重ねが、1日の安全な終わりにつながるのだと信じています。皆で意識し合って、これからも無事故で仕事に取り組んでいきましょう。

建物を支える「鋼材」のお話

適材適所で高品質を生むH形鋼と角形鋼管の使い分け

建物の品質は目に見えない部分で決まります。鉄骨造に欠かせない「鋼材」もその一つ。

特に「H形鋼」と「角形鋼管」は、建物の骨格を形成する重要な部材です。

今回はそれぞれが持つ役割とメリットを知り、
建物を支える技術の奥深さに触れてみましょう。

はじめに

鉄骨造はさまざまな形状の「鋼材」の組み合わせで作られる

誰もが日常的に利用するオフィスビルや商業施設、橋や高速道路。これらの多くは「鉄骨造」という構造で作られており、その名の通り、鉄の骨組みによって支えられています。

そして、その骨組みを構成しているのが「鋼材」です。鋼材にはさまざまな形状がありますが、今回はその中でも特に代表的な「H形鋼」と「角形鋼管」に焦点を当てます。一見同じように見える部材ですが、実は適材適所で使い分けられ、建物の品質を支えているのです。

角形鋼管

特徴

断面が四角形のパイプ状（鋼管）になっている鋼材です。主に建物の柱材として使用されます。

メリット

大きなメリットは、質量に対して断面性能が大きいこと。これは、少ない材料で高い強度を確保できることを意味し、構造体全体の軽量化につながります。建物が軽くなることで、基礎にかかる負担を減らしたり、耐震性を向上させたりといった効果が期待できます。耐食性に優れためっき処理を施した製品や、多彩なカラー塗装が可能な製品もあり、デザイン性を求められる店舗や施設の柱など「見える部材」としても活用されています。

H形鋼

特徴

断面がアルファベットの「H」の形をしていることから、その名が付けられました。「H鋼（エイチこう）」とも呼ばれます。シンプルな形状は加工のしやすさにもつながっています。

メリット

曲げに対して優れた強度があります。建物の梁（はり）など、上からの荷重を支える水平な部材として、その性能を発揮。比較的安価で調達しやすいというコスト面のメリットもあります。切断や穴あけといった簡単な加工でそのまま使用できるため、施工性が高く、工期の短縮にも貢献します。

まとめ

最適な鋼材を「適材適所」で選ぶべし！

建物の規模や用途、求められる性能、そしてデザイン。これらすべてのバランスを考え、最適な鋼材を「適材適所」で選ぶことこそが、安全で高品質な建物を作るための、重要で確かな第一歩です。その点を心得たうえで、まずは今回紹介したH形鋼と角形鋼管、それぞれが持つ優れた特徴を理解しておきましょう。